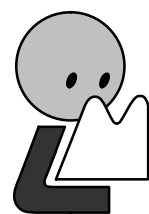


小学生に読みきかせ

低学年向けの絵本	……	3
中学年向けの絵本	……	7
高学年向けの絵本	……	10
ちしきの本	……	13
詩とことば遊びの本	……	16



- この冊子は、「学校図書館活性化事業」などで、はじめて小学校で絵本の読み聞かせを行ってみようというボランティアの方を対象にした絵本リストです。
- このリストに掲載されている絵本は、大阪市立図書館でも所蔵冊数が多く、みなさんにも手に取りやすいタイトルです。
- 読み聞かせに向いている絵本は数多くありますが、選びやすいように、各章で20～30冊でまとめました。
- 「低学年向き」「中学年向き」「高学年向き」と分けてはいますが、あくまで、目安だと思ってください。
- このリストの絵本をきっかけに、いろいろな絵本に接して、子どもたちの読書の扉を開ける手助けをしてあげてください。
- 図書に関する記載事項は、書名、編著者名、画家名、訳者名、出版社、大きさ、ページ数、大阪市立図書館書誌ID、通して読むのにかかる時間の目安の順になっています。



大阪市立図書館 2008年度
児童サービス研修作成資料
平成22年 1月21日改訂

(事務局)

大阪市立中央図書館 利用サービス担当
〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

小学生に読みきかせ

—低学年向けの絵本—

大阪市立図書館 2008

おおきなかぶ —ロシアの昔話— A.トルストイ著 内田莉莎子訳 佐藤忠良絵 福音館書店
20×27cm 27p 0011402352 5分

おじいさんの植えたカブが、大きく大きく育ちます。そのカブを抜くために、おじいさんだけでなく、おばあさん、孫娘、犬、猫、ネズミまでいっしょになってひっぱります。「うんとこしょどっこいしょ」のかけ声を楽しんでみましょう。

おふろだいすき 松岡享子著 林 明子絵 福音館書店 26×27cm 40p 0080016853 11分

ぼくとおもちゃのアヒルのプッカがお風呂に入っていると、浴室に次々と動物たちがあらわれます。狭いはずの浴室にカバやクジラまで登場する意外性もあり、少し長めのお話でも、子どもたちは楽しめます。

かいじゅうたちのいるところ モーリス・センダック著・絵 じんぐう てるお訳 富山房
24×26cm 41p 0000168219 5分

叱られて夕飯抜きで寝に行かされたマックスの部屋が森になり、波が打ち寄せ、船を運んできます。マックスは船に乗りかいじゅうたちのいる島に航海します。細密なペン画と抑えた色使い、無気味ながらも魅力的なかいじゅうたちが、子どもの心をひきつけます。

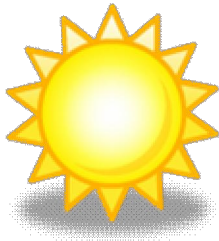
かさじぞう 瀬田貞二著 赤羽末吉絵 福音館書店 27cm 19p 0011631971 5分

大晦日の夜、雪の中のお地蔵さんが寒そうで、じいさんは売れ残った笠を順々にかぶせて帰ります。元日の明け方、不思議な掛け声が家の方に近づいてきます。柔らかな筆のタッチを生かした絵と温かな語り口が、静かな昔話の世界を紡ぎ出します。

キャベツくん 長 新太著・絵 文研出版 29cm 29p 0000226557 4分

腹ペコのブタヤマさんに食べられそうになったキャベツくんは、自分を食べるとキャベツになるよと言います。すると空には、体のどこかがキャベツになった動物が次々と浮かびます。ナンセンスな面白さとページをめくる楽しみがいっぱいです。





くまのコールテンくん ドン・フリーマン著・絵 松岡享子訳 偕成社

23×25cm 30p 0000232551 7分

クマのぬいぐるみのコールテンくんは、デパートのおもちゃ売り場で、誰かが買ってくれるのを待っていました。ある日、ボタンが一つないことに気づき、夜になってお店の中を探します。分かりやすい絵と文章で物語の世界に入りやすく、心あたたまるお話です。

ぐりとぐら 中川李枝子著 大村百合子絵 福音館書店 20×27cm 27p 0011402358 5分

のねずみのぐりとぐらは、森の中で、とても大きな卵を見つけます。その卵でカステラを作っていると、においにつられて森の動物たちが集まってきました。他にも『ぐりとぐらのかいすいよく』クリスマスがテーマの『ぐりとぐらのおきやくさま』などがあり、読み聞かせにむいています。

こすずめのぼうけん ルース・エインワース著 堀内誠一絵 石井桃子訳 福音館書店

20×27cm 31p 0000237252 7分

飛び方を覚えてばかりの子スズメが、初めて巣を離れ、さまざまな鳥たちの巣を回った後、母鳥のもとに帰りつくまでを描いています。小さな冒険をやり遂げた子スズメの達成感と安心感がよく伝わってきます。他の鳥たちとのやりとりの繰り返しがリズムカルです。

ことり 中川ひろたか著 平田利之絵 金の星社 18×18cm 25p 0011497362 3分

小鳥が1羽、2羽と次々にやってきて、10羽集まったところに、ネコがそろりと近づいてきます。黄色い背景に、青い小鳥と黒いネコが、色鮮やかに美しく描かれています。パズルのように図案化された小鳥たちが印象的で、ゆっくりとめくって楽しめます。

三びきのやぎのがらがらどん アスビョルンセンとモーの北欧民話

マーシャ・ブラウン著・絵 せた ていじ訳 福音館書店 26cm 30p 0080003949 5分

三匹のヤギが、山の草場へ行く途中の橋の下には大きな怖いトロルがいて、ヤギたちを食べようと待ち構えています。リズムカルな擬音の繰り返し、トロルとのやりとり、力強く美しい色彩の絵が魅力的な、昔話絵本の傑作です。

11匹きのねこ 馬場のぼる著・絵 こぐま社 27cm 39p 0000211627 5分

おなかをすかせた11匹のネコが、湖に住む大きな魚を捕まえようと、みんなで旅に出かけます。ユーモアたっぷりの絵で、のらネコたちの楽しい冒険をテンポよく描きます。シリーズの1作めで他の作品も人気があります。

スイミー ちいさなかしこいさかなのはなしー レオ・レオニ著・絵 谷川俊太郎訳 好学社

28cm 31P 0000285361 4分

真っ黒で小さな魚・スイミーは、赤い色をしたきょうだいたちと暮らしています。ある日きょうだいたちがみんな、大きな魚に食べられてしまいました。体の小さな魚たちが、工夫し協力して生きていく様子が描かれています。



ぜったいたべないからね ローレン・チャイルド著・絵 木坂 涼訳 フレーベル館
29cm 32p 0010232047 7分

好き嫌が多い妹のローラのため、兄のチャーリーはいいことを思いつきました。人参は木星の「えだみかん」、豆は空から降ってくる「あめだまみどり」と名付け、妹は思わず食べてしまいます。絵と写真のコラージュを活かした明るい画面で、兄妹のやりとりがほほえましく描かれます。

せんたくかあちゃん さとう わきこ著・絵 福音館書店 20×27cm 31p 0080017259 5分

かあちゃんが、洗濯物を干していると、いきなり暗くなった空から、薄汚れたかみなりさまが落ちてきました。かあちゃんは、かみなりさまもすっきり洗って干してしまいます。大らかな親しみやすい絵が魅力的です。

そらまめくんのベッド なかや みわ著・絵 福音館書店 20×27cm 27p 0000762318 5分

そらまめくんの宝物はさやでできた、ふわふわのベッドです。ある日、大事なベッドが無くなり、そらまめくんは探しに出かけます。さやのベッドという発想が面白く、豆の仲間たちとのやりとりも、にぎやかで楽しめます。

てぶくろ -ウクライナ民話- エフゲーニ・ラチョフ絵 うちだ りさこ訳 福音館書店
22×28cm 16p 0000228682 5分

雪の中、落としものの手袋に、森の動物たちが住みつきます。だんだん大きな動物がやってきて、手袋に煙突や窓が付いて行くのが、子どもたちをひきつけます。「ぴょんぴょんがえる」や「はやあしうさぎ」などの呼び名も楽しく、性格や特徴が表された動物たちの絵も見ごたえがあります。

どうながのプレッツェル マーグレット・レイ著 H.A.レイ絵 わたなべ しげお訳 福音館書店
26cm 32p 0000226563 5分

ダックスフントのプレッツェルは、胴がとても長くて、みんなの注目の的ですが、でも大好きなグレットだけは知らん顔。なんとか振り向いてもらおうと頑張るプレッツェルのけなげな様子が、のびやかな絵で微笑ましく描かれています。

にげだしたひげ シビル・ウェッタシンハ著・絵 のぐち ただし訳 木城えほんの郷
22×31cm 24p 0010479743 5分

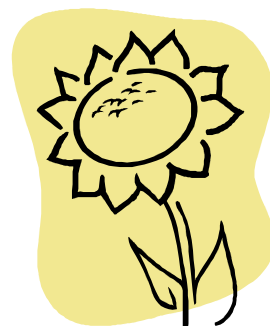
いつもはネズミにかじらせているバブンじいさんのひげが、切られまいと逃げ出してしまいました。動物も村人もぐるぐると巻き込んで伸びていきます。のんびりとした筆致で描かれた情景が楽しい、スリランカのお話です。

はらぺこあおむし エリック・カール著・絵 もり ひさし訳 偕成社
22×31cm 25p 0000226440 4分

日曜日の朝、卵からかえったアオムシは、食べるものを探しました。月曜日にリンゴを一つ、火曜日にナシを二つ、と腹ぺこのアオムシはどんどん食べつづけます。鮮やかな色彩の絵と、ページにあいた小さい穴のしかけで、見るものをひきつけます。

ひまわり 和歌山静子著・絵 福音館書店 22cm 24p 0011223221 4分

種が、とんと落ちました。どんどこ どんどこ、と大きくなっていきます。夏の太陽の下、緑の太い茎と葉が育ち、黄色い大きな花がどんと大きく開きます。縦に開いていく見開きの絵とどんどこの繰り返しのリズムが楽しめます。



密林ーきれいなひょうの話 工藤直子著 和田 誠絵 銀河社 31cm 32p 0000586860 8分

ヒョウは自分の体の斑点が自慢でした。ところが、突然、その斑点が家出をしてしまい、ヒョウは探しに出かけます。密林の動物達との会話も楽しく、新しく蝶々の斑点を得た、ヒョウの美しい姿がこの絵本の見せ場です。

めっきらもっきらどおんどん 長谷川摂子著 ふりや なな絵 福音館書店

20×27cm 31p 0000213027 6分

かんたが、神社でめちやくちやな歌を歌ったら、木の穴に吸い込まれて、夜の山に落っこちました。そこで、かんたは奇妙な名前の三人のおばけと、たっぷり豪快に遊びます。おまじないのような調子のよい歌と、黒を効果的に使った絵柄が、怖いもの見たさの子どもの興味をひきつけます。

ルラルさんのにわ いとう ひろし著・絵 ポプラ社 24×25cm 32p 0010144878 3分

ルラルさんの大切な芝生の庭。誰かが入ろうとしてもパチンコで撃退します。でもある朝、庭を見てびっくり！怖そうなワニが寝ているのです。とぼけた味わいの絵が魅力的で、最後のページをめくったときの楽しさは格別です。

わゴムはどのくらいのびるかしら？ マイク・サーラー著 ジェリー・ジョイナー絵

きしだ えりこ訳 ほるぷ出版 19×24cm 32 P 0000812686 3分

わゴムがどのくらい伸びるか試してみることにしたぼうやは、わゴムの端をベッドの枠に引っ掛けてどんどん引っ張り、ついには宇宙にまでいってしまいます。想像力豊かで楽しいお話です。大型絵本も出版されています。

わにわにのおふろ 小風さち著 山口マオ絵 福音館書店 22cm 24p 0010844368 3分

わにわには、おふろが大好きです。きゅるりきゅるりと蛇口をひねり、じゃばじゃばとお湯を入れ、じょろろーん！と飛び込みます。木版画のくっきりとした絵で、ワニの動きが印象的に描かれています。ユーモアたっぷりの擬音が面白く、気軽に楽しめます。



小学生に読みきかせ

— 中学年向けの絵本 —

大阪市立図書館 2008

おかえし 村山桂子著 織茂恭子絵 福音館書店 20×27cm 31p 0000233338 7分

タヌキの家のとなりにキツネが引っ越してきて、あいさつにいちごを持ってきました。すると、今度はタヌキが「おかえし」を、キツネが「おかえしのおかえし」をと、どちらも「おかえし」をやめません。どんどんエスカレートする「おかえし」合戦をユーモアたっぷりに描いています。

おだんごぱん 瀬田貞二訳 脇田 和絵 福音館書店 31cm 24p 0011745207 12分

ロシア民話。おばあさんがこしらえたおだんごぱんは、ころころころがり家の外へ逃げ出しました。動物たちに食べられそうになりますが、歌を歌ってかわします。優しい色合いの挿絵が、調子のよい文章やゆかいなお話になじんでいます。

ガラスめだまときんのつののヤギ —ベラルーシ民話— 田中かな子訳 スズキ コージ絵
福音館書店 22×31cm 32p 0011187419 6分

おばあさんの麦畑にある日、乱暴者のヤギが入り込み、麦を食べ畑を荒らします。クマをはじめ、森の動物たちにも追い出すことができませんでしたが、ついに一番小さいものが追い払ってくれます。迫力ある画でクマさえ歯が立たないヤギを描いています。

きつねのホイティ シビル・ウェッタシンハ著・絵 まつおか きょうこ訳
福音館書店 31cm 43p 0000383843 9分

お腹をすかせたホイティは、人間のふりをして、アンゴウさんたちの家を訪ねます。キツネだと知っていながら、だまされたふりをし、ごちそうを振舞う女たちとキツネのやりとりがユーモラスです。韻を踏んだ歌がとても美しいです。

さんねん峠 —朝鮮のむかしばなし— 李錦玉著 朴民宜絵
岩崎書店 25cm 28p 0070047864 5分

さんねん峠で転ぶと三年しか生きられない、という言い伝えがありました。ある日、おじいさんが石につまずいて、転んでしまいます。心配のあまり病気になってしまいますが、水車屋の助言で、再び元気を取り戻すことができました。村人たちのおじいさんへの愛情が感じられる朝鮮の昔話です。

じごくのそうべえ —桂米朝・上方落語・地獄八景より— 田島征彦著・絵
童心社 26×26cm 39p 0000173913 10分

軽業師のそうべえは、綱渡りの途中で転落し地獄に落ちてしまいます。ところが、山伏、歯抜き師、医者とともに、特技を活かして鬼をさんざんこずらせ、とうとう地獄から追放されてしまいます。上方落語に材をとった奇想天外なストーリーと、大胆で力強い絵で大人も子どもも楽しめます。

ジロがなく 山下ケンジ著・絵 講談社 25×27cm 32p 0011365478 6分

犬のジロはカラスに育てられました。鳴き声のせいでいじめられたジロは旅に出て、いつしか決して鳴かない強い犬として大きな群れを率いるようになります。群れを守ろうとするジロの勇気に胸が打たれます。淡々とした語りくちで物語にひきこまれます。

しりとりのだいすきなおうさま 中村翔子著 はた こうしろう絵

鈴木出版 21×28cm 25p 0010094995 5分

王様はしりとりが大好きです。けれど、料理がしりとりの順番に出てこないと、とたんに暴れだします。そんな王様と家来たちのやりとりを、親しみやすい絵柄とリズムのよい文章でユーモアたっぷりに描きます。表紙や見返しまでしりとり遊びが楽しめます。

スーホの白い馬 -モンゴル民話- 大塚勇三再話 赤羽末吉絵

福音館書店 23×31cm 47p 0000174618 10分

貧しい少年スーホが心をこめて育てた白馬を、殿さまは非情に取り上げました。白馬はなんとかしてスーホの所に帰ろうとします。モンゴルの「馬頭琴」という楽器にまつわる民話が、横長の画面いっぱいに描かれた雄大な大平原の絵とともに語られます。馬と少年のお互いを思う気持ちが心を打ちます。

せかい1おいしいスープ -あるむかしばなし- マーシャ・ブラウン再話・絵 渡辺茂男訳

ペンギン社 27cm 50p 0000165426 10分

空腹の兵隊たちは村人に食べ物を乞いますが、断られます。ところが兵隊たちが「石のスープを作ります」と宣言すると、村人たちは興味津々で集まってきます。兵隊たちの言葉にのせられ、村人たちはスープの材料を持ち寄ります。言葉たくみな兵隊たちと、知らず知らずに材料をもちよってしまう村人たちのやりとりがゆかいです。

だいくとおにろく -日本の昔話- 松居 直再話 赤羽末吉絵

福音館書店 20×27cm 27p 0011402359 10分

橋を架けた見返りに目玉をよこせと迫る鬼、大工は窮地においこまれます。名を当てれば許す、という日本の昔話です。カラーと白黒が交互に配された挿絵は、謎解きの雰囲気をよく出しています。ひらがなでつづられた文章は簡潔ですが、すっと心に入ります。

ちゃんとたべなさい ケス・グレイ著 ニック・シャラット絵 よしがみ きょうた訳

小峰書店 24×24cm 26p 0010323586 7分

デイジーはお豆が大嫌い。ママは、アイスクリームをあげるとか、夜遅くまでおきていていいとか言って、何とか食べさせようとしています。画面いっぱいに描かれた、はっきりした線と色使いの絵が、母親と子どものやりとりをユーモラスに表しています。

としょかんライオン ミシェル・ヌードセン著 ケビン・ホークス絵 福本友美子訳

岩崎書店 30cm 42p 0011387553 10分

ある日、町の図書館に大きなライオンが入ってきました。「きまり」を守って、一緒におはなしをきいたり、お手伝いしたりするライオンに、みんなもだんだん親しんできました。ところが、ある日大きな声でライオンがほえてしまったのです。やわらかなタッチの絵で人とライオンの暖かい交流を描きます。

トマトさん 田中清代著・絵 福音館書店 20×27cm 27p 0011240492 6分

夏の暑い日、畑のトマトさんのそばを、みんなが川遊びに行こうと通り過ぎます。しかしトマトさんは体が重くて動けません。強がっていたトマトさんがだんだん心細くなる様や、皆がトマトさんのために一致団結する様が共感を呼びます。迫力のある絵にも目をひきつけられます。

ねえ、どれがいい？ ジョン・バーニンガム著・絵 まつかわ まゆみ訳

評論社 31cm 30p 0000195560 5分

「もしもだよ、きみんちのまわりがかわるとしたら、大水と、大雪と、ジャングルと、ねえ、どれがいい？」からはじまる究極の選択が次々に登場します。たくさんの「もしも」が淡い色彩の絵とともに子どもの空想の世界を広げます。

花さき山 斎藤隆介著 滝平二郎絵 岩崎書店 25cm 34p 0000183446 5分

山菜を取りに入ったあやは、やまんばに出会います。やまんばから、足元に咲く美しい花は、優しいことをひとつすると、ひとつ咲くことを教えてもらいます。おりませた方言が味わい深く、村人やあやの優しさが心に響きます。

まゆとおに -やまんばのむすめまゆのおはなし- 富安陽子著 降矢なな絵

福音館書店 27cm 30p 0010711190 6分

やまんばの娘まゆはある日、鬼に会いました。まゆをだまして、ゆでて食おうとする鬼ですが、まゆの怪力にたまげてしまいます。小さな女の子が知らないうちに鬼をやっつけてしまうゆかいなお話と、表情豊かに描かれた絵が笑いを誘います。

やまなしもぎ 平野 直再話 太田大八絵 福音館書店 21×23cm 39p 0000226560 15分

病気の母親のために、三人兄弟が順番にやまなしを取りに行きます。長男、次男が戻らず、ついに三男が行くことになりました。途中、一人のばあさまに出会います。細部まで緻密に描かれた挿絵が美しく、冒険に向かう緊迫感をよくあらわしています。

よあけ ユリー・シュルヴィッツ著・絵 瀬田貞二訳

福音館書店 24×26cm 32p 0000231838 3分

湖のほとりでおじいさんと孫が毛布にくるまって眠っています。ふと湖にさざなみが立ち、ゆっくりと夜が明け始めます。音もなく静まりかえった夜更けから、うっすらと風景に色がつき、朝日が昇るまでの様子が美しく丁寧に描きだされ、自然の雄大さを味わえます。

ラン パン パン -インド民話- マギー・ダフ再話 ホセ・アルエゴ絵 アリアンヌ・ドウィ絵

山口文生訳 評論社 21×26cm 30p 0000169023 9分

さらわれた女房を取り返すため、クロドリは横暴な王様に戦いを挑みます。ネコ、アリ、木の枝、川を味方につけ、ランパンパンと太鼓の音も勇ましく、いざ宮殿へ。さて、クロドリは見事女房を助け出すことができるでしょうか。はっきりとした色彩のコミカルな絵が、奇想天外なお話にぴったりです。



小学生に読みきかせ

—高学年向きの絵本—

大阪市立図書館 2008

あたらしいぼく シャーロット・ソロトウ著 エリック・ブレグヴァド絵 みらい なな訳 童話屋
24cm 32p 0000233061 6分

いつもと同じ生活の中で「ぼく」は自分が自分でないような違和感を覚えます。そして大人へと成長しつつある心の変化に戸惑いながらも、今までと違う新しい自分になったことを自覚します。思春期の少年の心理を、落ち着いたある絵で丁寧に描きます。

あな 谷川俊太郎著 和田 誠絵 福音館書店 27cm 32p 0000226322 3分

ある日、ひろしは地面に穴を掘り始めました。理由もなく夢中で掘り続けた自分だけの穴。掘り終えた穴の底から見上げた空は、いつもより高く、青く見えたのでした。絵もシンプルで簡潔な物語ですが、そこには思春期の子どもたちにも伝わる、哲学的奥深さが備わっています。

いつもちこくのおとこのこ —ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー—

ジョン・バーニンガム著・絵 たにかわ しゅんたろう訳 あかね書房 26cm 32p 0070008877 8分

ジョンが学校へ行こうとすると、ワニやライオンが出たり高潮にあったりして、どうしても遅刻してしまいますが、先生は信じてくれず厳しい罰ばかり与えます。怪物のような先生に動じず対処するジョンの姿がシニカルな物語を引き立てます。最後のどんでん返しが愉快で痛烈です。

オオカミと石のスープ アナイス・ヴォージュラード著・絵 平岡 敦訳 徳間書店

29×30cm 24p 0000852614 9分

ある冬の夜、年老いたオオカミがメンドリの家にやってきました。メンドリを心配して近所の動物達が次々と訪れるおかげで、オオカミはメンドリを食べられず、野菜たっぷりの石のスープを食べるはめになります。ユーモラスな話を、本心の表れたオオカミの目がひきたてます。

おおきくなりすぎたくま リンド・ワード著・絵 渡辺茂男訳 ほるぷ出版

27cm 86P 0000235906 14分

ジョニーくんが森から連れ帰った子熊はとて大きくなり、よその家の食料や作物まで荒らすようになりました。かわいがっていた熊を退治せねばならぬと決意するけなげなジョニーくんですが、最後には意外な幸運に出会います。絵は淡彩ですが、迫力があります。

おじいさんの旅 アレン・セイ著・絵 大島英美訳 ほるぷ出版 30cm 32p 0010420104 6分

若い頃アメリカに移住したおじいさんは、故郷が恋しくなって日本に帰ります。その後、戦争のせいで、戻りたくてもとうとうアメリカには戻れなかったおじいさんの気持ちを継いで、日本生まれのぼくが、アメリカに渡ります。感情を抑制した短い文で、望郷の気持ちを描きます。

からすたろう 八島太郎著・絵 借成社 31cm 35p 0000233247 9分

入学の時から皆にばかにされていた「ちび」は、6年で受け持たれた先生に、はじめて認められるようになります。自然を深く観察する力を持っていた「ちび」は、学芸会ですばらしいカラスの鳴き声を披露して、生徒や町の人たちに感動を与え、自信を持って卒業していきます。

クムカン山(さん)のトラたいじ (世界みんな絵本1 朝鮮) 松谷みよ子著 梶山俊夫絵

ほるぶ出版 24×25cm 33p 0000244420 8分

キルリヨンの父は、クムカン山の大トラを退治しにいて帰ってきませんでした。そこで、キルリヨンは、父のかたきうちをするために9年もの間鉄砲の稽古をします。力と知恵で大トラを倒すまでに成長したキルリヨンが頼もしく、母とのやりとりに深い情愛が感じ取れます。

さらわれたりゅう -今昔物語より- 沼野正子著・絵 福音館書店

20×27cm 31p 0000374538 8分

日照りの村に雨を降らせて村人にあがめられていた龍神(りゅうじん)は、てんぐにねたまれて岩に閉じこめられます。その後お坊さんに助けられた龍神は、てんぐをこらしめに都へ行きます。迫力のある水墨画で、日本古典文学の世界への扉をひらいてくれます。

しまふくろうのみずうみ 手島圭三郎著・絵 リブリオ出版 31cm 41p 0000848797 7分

北海道の深い山奥のだれも知らない湖に、日が暮れて、シマフクロウの親子が現れました。子どものために魚をとりに飛び立つ一夜の狩りの姿を、力強く美しい版画で描いています。簡潔な文も快く、雄大な自然に生きる野生生物の世界を伝えてくれます。

ゼラルダと人喰(く)い鬼 トミー・ウンゲラー著・絵 たむら りゅういち・あそう くみ訳

評論社 31cm 32p 0000211638 5分

ゼラルダを襲った人喰い鬼はあせって怪我をします。動けない彼がゼラルダにつくってもらった料理は、おいしくて自分が人喰いであることなんて忘れるほどでした。人喰い鬼も幸せになる結末は、ウンゲラーのあたたかい持ち味を感じさせます。

たいせつなこと マーガレット・ワイズ・ブラウン著 レナード・ワイスガード絵

うちだ ややこ訳 フレーベル館 26cm 24p 0010149780 5分

普段は気にかけないありきたりなものでも、必ず役割や意味があります。それが「たいせつなこと」。身近なものを見つめなおし、一言ずつ綴られる言葉が、素朴で繊細ながら印象的な絵と一体となって、聞き手に様々なたいせつなことを問いかけます。

とうもろこしおばあさん -アメリカ・インディアン民話- 秋野和子再話 秋野玄左牟絵

福音館書店 20×27cm 31p 0000565874 7分

昔ある村を一人の老女が訪れました。快く迎えた村人に彼女はとうもろこしパンをふるまいます。とうもろこしを初めて知った村人はどこで手に入れたか知りたくてこっそりあとをつけ、その秘密をのぞいてしまいます。とうもろこし栽培が伝わった神秘的な由来を多彩な絵で描きます。

どんなかんじかなあ 中山千夏著 和田 誠絵 自由国民社 27cm 33p 0011021108 5分

目が見えない友達、耳が聞こえない友達、両親を失った友達の感じている世界を、車椅子の主人公ひろくんが「どんなかんじかなあ」と考えます。無駄のない明るい絵が聞き手の想像をひろげ、前向きな考え方は物事の多様なとらえ方を教えてくれます。

ねんどぼうや ミラ・ギンズバーグ著 ジョン・A.スミス絵 覚 和歌子訳 徳間書店
29cm 32p 0010593666 8分

おじいさんが作ったねんどぼうやは、目に入るものすべてを食べて巨大化し、おじいさんとおばあさんまで食べて、村中のものを食べつくしに出てゆきました。テンポの良い語りと迫力満点の絵がよく合って、のどかさとダイナミックさが楽しめます。ロシアの昔話が元になっています。

ハーモニカのめいじんレンティル ロバート・マックロスキー著・絵 まさき るりこ訳
国土社 32cm 63p 0000820159 10分

歌も口笛も下手だけれど音楽の大好きなレンティルは、「ハーモニカのめいじんになろう」と決めます。そんなある日、町でおこった大事件をハーモニカの演奏で見事に解決します。一生懸命に練習することで自信をつけていく少年の姿が、モノトーンの絵でいきいきと描かれています。

100万回生きたねこ 佐野洋子著・絵 講談社 25×27cm 31p 0011528258 11分

100万回も生きたことが自慢の立派な猫がいました。ある時、白い猫に出会い一緒に暮らし始めます。やがて白い猫が死んだあと、猫は生まれて初めて泣きました。淡々とした語りと落ち着いた色調の絵の中に、愛とは、生きることとはどういうことかが描かれています。

ルピナスさん ー小さなおばあさんのお話ー バーバラ・クーニー著・絵 かけがわ やすこ訳
ほるぶ出版 21×27cm 32p 0070007658 11分

子どものころ、世の中をもっと美しくするために何かすることをおじいさんと約束したアリスは、年をとってから、村中にルピナスの花を植え、ルピナスさんと呼ばれるようになりました。その約束は次の世代にも受け継がれました。人生の意義を、世界の美しさとともに描きます。

ロバのシルベスターとまほうの小石 ウイリアム・スタイグ著・絵 せた ていじ訳 評論社
29cm 35p 0011156737 12分

何でものぞみのかなう“まほうの小石”を手に入れたシルベスターは、家へ帰る途中にライオンに出会い、恐ろしさのあまり岩になってしまいます。のちに、息子をさがしまわっていた父母と再会できた時、家族は魔法が使えなくても“のぞみ”がかなうことを知ります。

わすれられないおくりもの スーザン・バーレイ著・絵 小川仁央訳 評論社
22×27cm 25p 0000240407 8分

賢く優しくアナグマが亡くなりました。悲しみの中で思い出を語り合う仲間たちは、アナグマが残していったくれた、たくさんの知恵に気づくのです。淡い色彩のペン画が静かな情景を描き出し、支えあうことの意味、死んでもなお残される大切なものを伝えてくれます。



小学生に読みきかせ —ちしきの本—

大阪市立図書館 2008

あんな雪こんな氷 高橋喜平著・写真 講談社 22cm 39p 0000373441 11分

雪や氷が作る不思議な形をなじみのあるものに例えることで、雪を普段見ない子どもたちにも雪の世界に入りやすいよう、工夫をこらしています。性質の紹介とともに、なぜこんな形になるのかを、ていねいに説明しています。写真も美しいです。

おおきくなったよさるのあかちゃん さえぐさ ひろこ著 松成由起子写真

ひさかたチャイルド 21×24cm 27p 0011610992 4分

子猿が話すことができたならこんなだろうと思わせる写真と文が、よくあっています。自然とふれあういきいきした子猿の表情が楽しく、成長の喜びが伝わってきます。猿の集団生活も、自然に知ることができます。

おなら 長 新太著 福音館書店 25cm 27p 0000173596 3分

おならについてわかりやすく説明されています。どうしておならが出るのか、どのくらい出るのかなど、短くやさしい文章で書かれていて小さいこどもでもよくわかります。また、単純な線で描かれたほんわかした絵が親しみやすい。からだの不思議を楽しく学ぶことができます。

こいぬがうまれるよ ジョアンナ・コール著 ジェローム・ウェクスラー写真 つぼい いくみ訳

福音館書店 26cm 40p 0070008762 5分

子犬が母犬からうまれおちるところから始まります。一枚一枚の写真が子犬の成長をていねいにとらえ、生命の不思議や大切さを伝えてくれます。子犬は女の子と出会い、お友達ちになっていきます。

コウテイペンギンのおやこ 内山晟著・写真 ポプラ社 19×27cm 27p 0010182553 8分

メスは卵を産むと、オスに卵をあずけ、数百キロ先の海まで雛に与える餌を捜しにいきます。オスは、雛がかえるまでの約2ヶ月、卵を自分の足の上に乗せて、寒さと飢えに耐えながら、ただひたすら暖めます。懸命に育て、見守る親の愛情が写真から伝わってきます。

しずくのぼうけん マリア・テルリコフスカ著 ボフダン・ブテンコ絵 うちだ りさこ訳

福音館書店 21×23cm 24p 0080003951 6分

旅に出たしずくは、町から空へ、そして地面へ、それから川へと冒険を続けます。物語を読み進めるうちに、小さなしずくが雨になったり氷になったりと、自然のしくみや水の役割がわかってきます。東欧らしい落ち着いたかわいい絵で、文章が手書きの文字なのも親しみやすい。

たんぼぼ 平山和子著・絵 北村四郎監修 福音館書店 26cm 23p 0000173557 8分

身近な植物たんぼぼの強さの秘密、生きるためにどんな工夫をしているのか、その不思議さにおどろかされます。土の中の根っこの様子は圧巻。4ページにわたって知ることができます。絵は写実的でわかりやすく描かれています。

ちのはなし 堀内誠一著・絵 福音館書店 26cm 23p 0070020145 6分

ころんですりむいたひざから、血がでます。そして、いつのまにかかさぶたができてきます。からだをめぐる血の働きが、太い線のタッチの絵で描かれ、血がどんなに大切な働きをしているかがわかり、やさしくしめくられています。

はっぱ -しぜんとあそぼう- 水野政雄著 小学館 29cm 25p 0011064292 3分

葉っぱの形はさまざまで、色とりどりです。身近にあるはっぱをつかって、絵を描くように色んなものを作ってみましょう。ひと工夫することで、生き生きと動き出すはっぱたちの写真がいっぱい。一緒に登場する「木ぼっくり」人形も、表情豊かで魅力的です。

はなのあなのはなし やぎゅう げんいちろう著・絵 福音館書店 26cm 27p 0000173564 6分

はなのあなを自分とおじいちゃんので比べたり、動物のはなのあなと見比べたり、鼻毛のしくみ、はなづまりのこと。はなの中はどんなふうになっているのか、なんのためにあるのかなど、大切なことをわかりやすい絵で楽しく知ることができます。

ピーナッツなんきんまめらっかせい こうや すすむ著 中島睦子絵

福音館書店 26cm 27p 0000342085 5分

これらは全部同じ豆なのです。生の「らっかせい」を植えると、芽が出て成長します。取れた豆を炒ると「らっかせい」、薄皮付きなら「なんきんまめ」、皮をとって油で揚げると「ピーナッツ」です。“落花生”という名前の由来もよくわかります。

ふゆめがっしょうだん 富成忠夫、茂木 透写真 長 新太著

福音館書店 26cm 27p 0000436526 4分

木の芽の冬姿を24枚の写真で紹介します。笑っているのか、困っているのか。ひょっとするとふくれつつらなのかもしれません。拡大されたそれぞれの芽をじっくり眺めてみると色々な表情が見えてきます。「パッパッパッパッ」というリズムにあわせて、一緒に合唱してみませんか？

ぼく、だんごむし 得田之久著 たかはし きよし絵 福音館書店 26cm 27p 0010959241 5分

ちいさいちいさいだんごむしの目線からみた世界が描かれ、そのたべもの、すんでいるところ、怖い天敵のいきもの、脱皮 冬眠など一生のサイクルが描かれています。ちいさいいきものにも生活があり、その複雑さに驚かされます。

ポットくんとミミズくん 真木文絵著 石倉ヒロユキ絵 福音館書店

26cm 27p 0011157669 7分

かわいい表情のポットくんを主人公に、ミミズの生態や役割についてわかりやすく書かれています。ミミズが土を食べることで、土を柔らかくして水や空気をしみこみやすしたり、出したうんちが土の栄養となることなどが温かみのある絵で描かれます。

ほら、きのこが… 越智典子著 伊沢正名写真 福音館書店 26cm 40p 0000801315 8分

いろいろな色・形のきのこの写真が見る人を圧倒します。写真一枚一枚の完成度の高さ、バラエティに富んだいろんなアングルの写真がすばらしいです。リズムカルな言葉や簡潔な文章が、きのこの知識を深めていきます。

まちのコウモリ 中川雄三著・写真 ポプラ社 21×26cm 35p 0011427011 7分

まちに住むコウモリは、私たちにとって最も身近な野生の動物です。空を自由に飛びまわる、世界でたったひとつのけもの。一見こわく見える顔も、角度を変えるとちょっとかわいく見えたりもします。アブラコウモリの一年を追った写真が豊富です。

みんなおなじでもみんなちがう 奥井一満著 得能通弘写真 小西啓介AD

福音館書店 26cm 28p 0011379827 2分

生き物や植物、食べ物など同じ種類のものがたくさん、見開きのページいっぱい写真で紹介されます。文章は「みんなおなじ でも みんなちがう」が繰り返されるだけ。色が違う、模様が違うなどそれぞれの写真が鮮やかで装丁もおしゃれです。単純な絵本ですが深みが伝わってきます。

やさいのおなか きうち かつ著・絵 福音館書店 19cm 47p 0000590611 3分

くだものなんだ きうち かつ著・絵 福音館書店 19cm 47p 0011409523 3分

なんだろう？どこかで見たようなシルエットが描かれ、次のページでそれが普段見慣れている野菜や果物の断面図であることが示されます。楽しい発見と驚きを簡潔な絵で伝えます。プログラムの導入や、変化をつけるのにも役立ちます。

やぶかのはなし 栗原 毅著 長 新太絵 福音館書店 26cm 27p 0000391034 7分

おなかのすいたオスのやぶ蚊とそのおよめさんになったメスのやぶ蚊による真夏のある一日の暮らしが描かれています。意外な発見もあり、その生態がよくわかります。パステルを使った大胆な絵ですが、蚊の姿はしっかりと描かれています。

リボンのかたちのふゆのせいざオリオン 八板康磨著・写真 杉浦範茂絵

福音館書店 26cm 27p 0000220303 3分

冬は星を見るのに最適な季節です。街中では空が明るく、なかなか星が見えないものですが、オリオン座は大阪でもよく見える冬の星座です。普段なじみのあるリボンに例えることで、星座を探しやすくしています。

わたし 谷川俊太郎著 長 新太絵 福音館書店 25cm 27p 0000173587 4分

「わたし」を「わたし」以外のひとからみたら、どうなるかしら？ 自分の存在を周りから見ると色々な「わたし」がいます。お母さんから宇宙人、はたまたキリンまで登場です。繰り返しを重ねることで、ますます浮き彫りになる「わたし」をお楽しみください。



小学生に読みきかせ —詩とことば遊びの本—

大阪市立図書館 2008

おおむね対象年齢の低い順にならべています。

—えほん—

ぶたたぬききつねねこ 馬場のぼる著・絵 こぐま社 19cm 40p 0000271125 2分

「おひさま」が「まど」を照らすと「どあ」から「あほうどり」が出てきます。全部で41のしりとりが、楽しいストーリーとなってテンポよく進んでいきます。『11ぴきのねこ』の馬場のぼるが描くユーモラスな絵が子どもたちの笑いを誘います。

もこ もこもこ 谷川俊太郎著 元永定正絵 文研出版 29cm 29p 0000226468 2分

ページをめくるたびに、「しーん／もこ／もこもこ、によき」などの単純なことばと、その音からイメージされる絵が出てくる絵本です。ことばのリズムがよく、絵もはっきりしていて見やすいので、幼児にもわかりやすいです。

これはのみのぴこ 谷川俊太郎著 和田 誠絵 サンリード 29cm 32p 0070020137 7分

ページをめくるごとに、「これはのみのぴこ これはのみのぴこのすんでいるねこのごえもんこれは……」と、テンポの良い文が積み重なります。明るい色のくっきりした絵とともに、どんどん世界が広がっていきます。

じゅげむ (落語絵本4) 川端 誠著・絵 クレヨンハウス 31cm 24p 0010533360 7分

よく知られた古典落語を絵本に仕立てたシリーズの一冊です。子どもに良い名前をと、和尚さんに聞いためでたい言葉を全部つけて、難儀をする話です。「じゅげむじゅげむ」で始まるくり返しを、よく練習して読みましょう。

ベーコンわすれちゃだめよ! パット・ハッチンス著・絵 わたなべ しげお訳 偕成社
21×26cm 32p 0080001559 3分

「うみたてたまごが6こと……」と、たのまれたお買い物を忘れないよう繰り返しているうちに、どんどんおかしい具合になっていく様子が伝言ゲームのようで笑いを誘います。登場人物の表情の変化も楽しめます。

ここんぷいぷい —創作ことばあそび絵本— 織田道代著 木葉井悦子絵 福音館書店
26cm 28p 0000592677

呪文、まぜかえし言葉、位置決めことばなど、15種類の言葉遊びを紹介した絵本です。「どれにしようかな、てんのかみさまのいうとおりに」など、よく知られているものから、ゲームのように楽しめるものまで、言葉の世界を遊べます。

まどさんとさかたさんのことばあそび まど みちお著 阪田寛夫著 かみや しん絵
小峰書店 25cm 54p 0000290971
まどみちお、阪田寛夫の詩が交互に見開き1ページで紹介されています。語呂やリズムがよく、ユーモアのあることばあそびうたです。子どもたちと一緒に、声に出して読んでみても楽しいです。

みんなであそぶわらべうた 近藤信子編・遊び方指導 梶山俊夫絵 福音館書店
25cm 39p 0000589869
長く歌い継がれ、暮らしの中に息づいてきたわらべうたを、遊び方・楽譜とともに11編紹介しています。力強い描線の素朴な挿絵が歌詞に味わいを添えます。誰でも自然に口ずさめるわらべうたを子どもたちと楽しみましょう。

一詩集 など一

お江戸はやくちことば 杉山 亮著 藤枝リュウジ絵 河合楽器製作所出版事業部
22cm 32p 0000650873
「生麦生米生卵」など江戸の昔から伝わる早口ことばと、ひねりを加えた新作早口ことばを、遠目のきくくつきりとした挿絵を添えて紹介しています。大真面目な解説文も楽しく、導入として一部だけ用いることもできます。

かさぶたってどんなぶた 小池昌代編 スズキ コージ絵 あかね書房 25cm 40p 0011496805
詩人小池昌代が現代詩の中からことば遊びの詩を18編選びました。今にも飛び出しそうな、動きのあるコラージュの絵が、ことばの世界を盛り上げます。巻末には編者から読者への「手紙」があり、各詩の味わいを伝えています。

ことばあそびうた 谷川俊太郎著 瀬川康男絵 福音館書店 23cm 36p 0000237291
「いるかいるか／いないかいるか」のように、重ね言葉を駆使した詩15編に、渋い味わいのさし絵が趣を添えます。時おり昔風の言い回しも登場し、ユーモラスな響きを深めています。続編もあり、言葉遊びの入門に適した詩集です。

なぞなぞあそびうた 角野栄子著 スズキ コージ絵 のら書店 20cm 77p 0070021179
「あな みつつ ふたつに あしくぐり ひとつに おなかくぐり」リズムカルな言葉で綴られた楽しいなぞなぞあそびうたです。答えは子どもたちの身近なものばかりで、挿絵がヒントになっています。

のはらうた(1～5) 工藤直子著 童話屋 16cm 155p 0070006720～2, 0000834243, 0011692747
野原の子ネズミや風などのつぶやきを、代表人として著者が書きとめた詩集です。見開き1ページにひとつずつ詩がのっています。それぞれの生き物や自然の特徴をとらえた詩からは、ほのぼのとした雰囲気伝わってきます。

大阪ことばあそびうた 島田陽子著 編集工房ノア 22cm 79p 0000195677
大阪弁で書かれた詩が30編入っています。声に出して読むと、普段何気なく口にして言っている言葉の、まるやかさや響きのおもしろさに気付きます。最近あまり使われない言葉の意味は、注に書かれています。続編も出ています。

てんぷらぴりぴり まど みちお著 大日本図書 22cm 57p 0070006719

「ぞうさん」などの童謡で知られる、まどみちおの詩集。石ころ、夕方、スイカのたねなど身近な素材を扱ったものが多く、子どもにも親しみやすいです。軽快な音やにおい、情景がじかに伝わってくるような詩です。

まさかさかさま動物回文集 石津ちひろ著 長 新太絵 河出書房新社 19cm 61p 0011512194

「らつかんしたぶたしんかつら」は「楽観したブタ、新かつら」。動物を読み込んだ回文が、次々と繰り出されます。意外な言葉の組み合わせから姿を想像すると、くすっと笑えます。自分でも回文が作ってみたいくなります。

わたしと小鳥とすずと -金子みすゞ童謡集- 金子みすゞ著 JULA 出版局

18cm 160p 0000361758

大正時代の詩人・金子みすゞの童謡を60編収めています。「みんなちがって、みんないい」で終わる表題作など、やさしい言葉で書かれた詩は、透き通った感性と子どもの視点を感じさせます。続編『明るいほうへ』とともに、絵本を読む前や合間に読んで楽しみましょう。

おーいぼぼんた -声で読む日本の詩歌166- 茨木のり子他編 柚木沙弥郎絵 福音館書店

24cm 192p 0010068612

大岡信、岸田衿子ら5人の詩人が、万葉集から現代詩に至るまで日本の詩と俳句、短歌から幅広く166編を選んだ詩集です。なじみのある詩歌も数多くあり、改めて子どもたちと味わいたい作品がつまっています。

しゃべる詩 あそぶ詩 きこえる詩 はせ みつこ編 飯野和好絵 富山房

23cm 159p 0000439684

北原白秋から工藤直子まで、たくさんの詩人がつくったさまざまな詩を、57編集めた本です。声に出して読み、遊んで、耳をすまして味わってみましょう。カラフルで大胆な挿絵のおもしろさも子ども達に喜ばれそうです。

よりぬきマザーグース 谷川俊太郎訳 鷲津名都江編 岩波書店 18cm 165,42p 0000851465

「ロンドンばしがおっこちる」など、英語圏の伝承童謡「マザーグース」から広く知られる50編を集めた詩集です。それぞれの詩の原詩と解説が載っています。歴史的背景や遊び方などが紹介され、マザーグースをより深く楽しめます。

